

加藤玄智博士逝去四十年に本会功労者を偲ぶ

明治聖徳記念学会会長

外山勝志

明治聖徳記念学会は、林博太郎会長（伯爵・教育学）・加藤玄智理事（宗教学）・白鳥庫吉理事（東洋史学）らが中心となって大正元年十一月三日に設立（大正九年三月財団法人設立登記）した、明治天皇の聖徳を永遠に記念する日本研究の学会であり、研究所（加藤所長自宅）も開設し、内外の会員約七百名が参加して活発に研究・講演・出版の諸事業を展開しました。昭和二十年に自然休会し、二十八年明治神宮に献納されました。

加藤玄智博士逝去十周年にあたる昭和五十年五月、明治神宮内に事務所を置く加藤玄智博士記念学会が発足し、さらに六十三年十一月、同会を明治聖徳記念学会と改称・再発会しました。この三十年にわたり、明治神宮歴代宮司が会を奉納した林氏や加藤氏の遺志を受け継いで会長を務めております。同じく加藤玄智博士記念学会時代には加藤氏に師事した小林健三氏をはじめ、安津素彦氏・上田賢治氏・鎌田純一氏が機関誌『神道研究紀要』の編集に尽瘁し、再発会後も神道学・宗教学研究の第一人者である上田氏・阿部美哉氏・安蘇谷正彦氏・阪本是丸氏が理事長・常務理事に就いて、その指導のもと内外の優れた研究者が多数参画し、講演会・研究会の開催や会誌発行などの事業を推進してまいりました。

昨年平成十七年は、加藤博士逝去四十年という節目でした。十年祭を期して学会が発足し、二十年（昭和六十年）・三十年（平成七年）の際にも機関誌で特集や記念論文を企画いたしました。今回は同時に日露戦争（ポーツマス講和条約調印）百周年を迎え、学界では出版物の刊行やシンポジウムの開催が相次ぎました。そこで熟慮のすえ、明治の聖徳記念という設立の趣旨にそうべく、日露戦争百周年の特集を第一優先に諸事業を展開いたしました。そして遅ればせながら一年後の本年、加藤先生をはじめ本会の発展に尽した方々の努力に感謝し、ここに記念特集号を刊行する運びとなった次第であります。

私たちが国際社会の一員として生きてゆくためには、先人が如何にして道を切り拓いて来たのかを正しく理解することが大切であり、今特集号は神道・日本文化研究の発展と普及、また国内外の諸問題の解決に向けて、多くの手がかりを提供するものと、期待いたしております。

（明治神宮宮司）